表面処理技術のさらなるグローバル展開をめざして

第55期･2015年3月期

決算説明会資料

株式会社JCU

東証1部　4975

2015年5月13日（水）

http://www.jcu-i.com/

- **2015年3月期決算概要**
- トピックス
- 参考資料 (会社概要)

2015年3月期業績概況

当社決算の概況

《電子部品分野向け》

スマートフォンをはじめとするモバイル通信機器の販売が好調。
特に、ハイエンド品の新機種および中国スマートフォンが業界を牽引。
関連する電子部品の需要増加を受け、当社の“ビアフィリング銅めっき薬品”が大幅に増加。

《自動車分野向け》

国内の自動車販売は、消費税増税の影響で低迷。一方、海外は原油安の恩恵もあり、堅調に推移。
当社の自動車向け薬品も海外を中心に、販売が増加。設備投資の一服感から、装置販売は前年を下回った。

2015年3月期業績概況

【連結】

(単位:百万円)

決算期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期			
	実績	実績	期首予想	修正予想	実績	対前期増減率
売　上　高	14,581	16,467	18,000	19,700	19,803	20.3 %
営業利益	1,807	2,726	3,000	4,500	4,606	69.0 %
経常利益	1,902	2,964	3,000	4,800	4,834	63.1 %
当期純利益	1,080	1,763	2,000	3,200	3,204	81.7 %
1株当たり当期純利益	153円22銭	250円04銭	283円52銭	453円62銭	454円30銭	―

2014年10月1日付で、普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。
前々、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益額を算定しております。

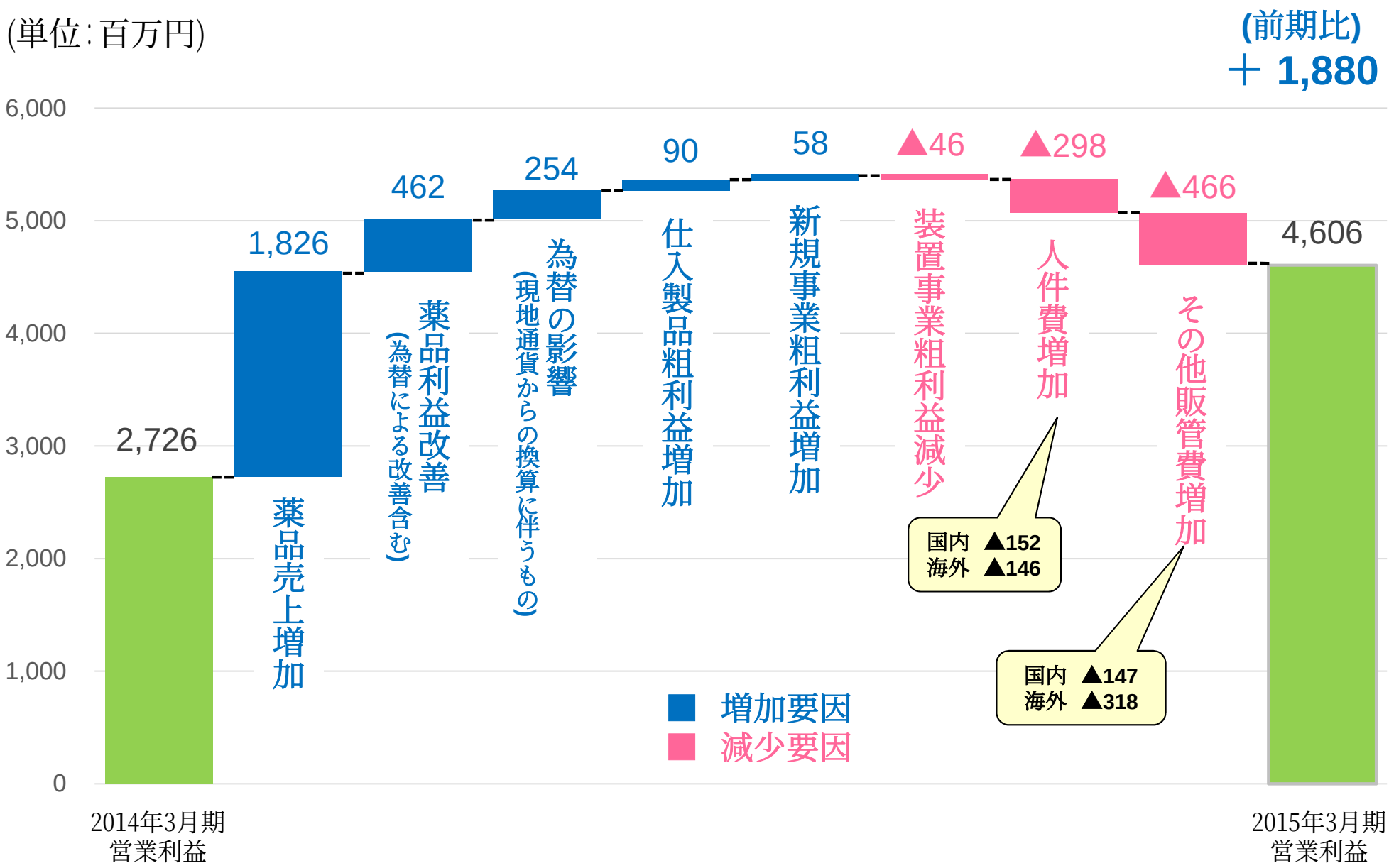
貸借対照表　要約

(百万円)	2014年3月期	2015年3月期
流動資産	12,049	15,511
現金及び預金	4,993	7,013
受取手形及び売掛金	4,527	5,695
たな卸資産	1,273	1,647
固定資産	5,084	6,104
有形固定資産	3,238	4,111
投資その他の資産	1,708	1,902
資産合計	17,133	21,616
流動負債	5,095	5,636
支払手形及び買掛金	2,145	2,320
短期借入金(一年内長期含む)	794	818
固定負債	2,034	2,347
長期借入金	861	1,019
負債合計	7,129	7,983
純資産合計	10,004	13,633
負債･純資産合計	17,133	21,616

※　一部の勘定科目について省略しております。

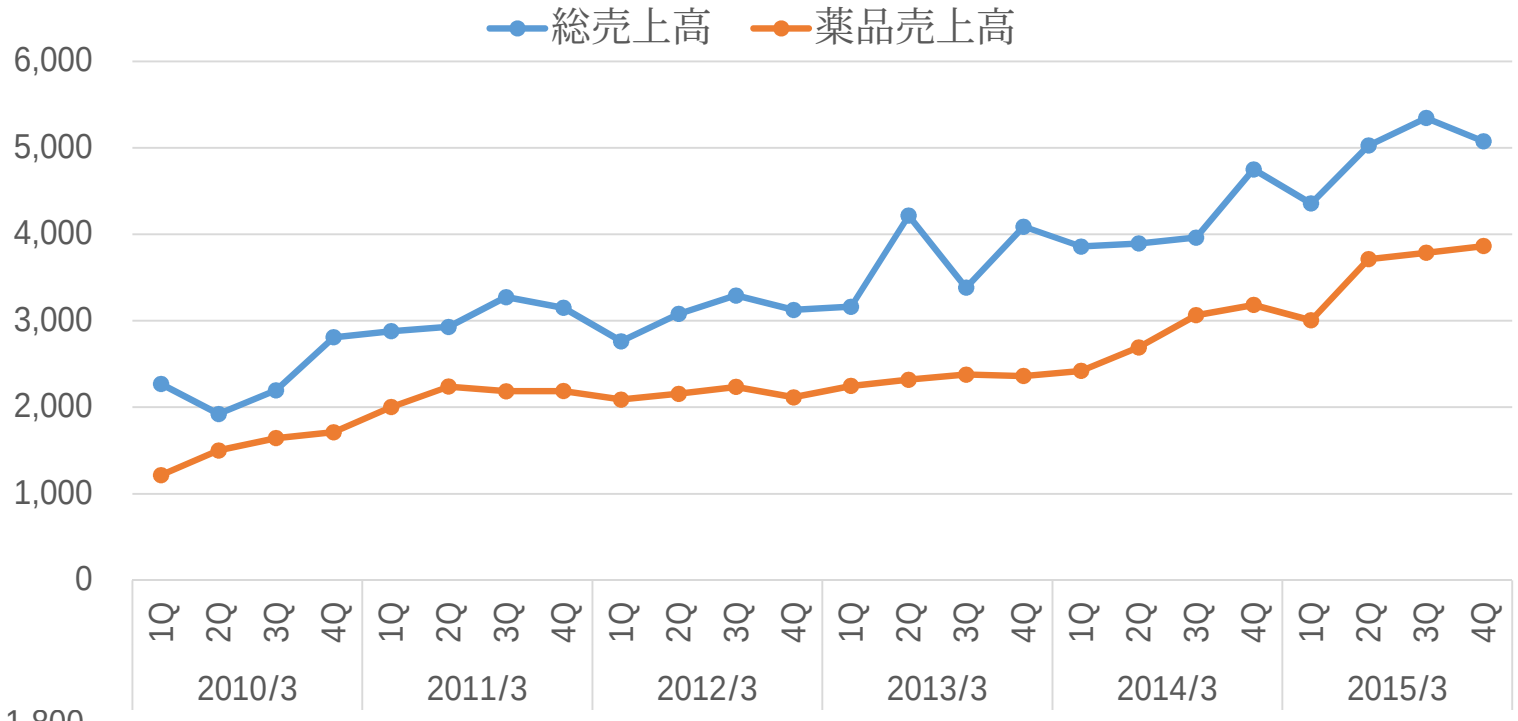
2015年3月期　連結営業利益　増減内容

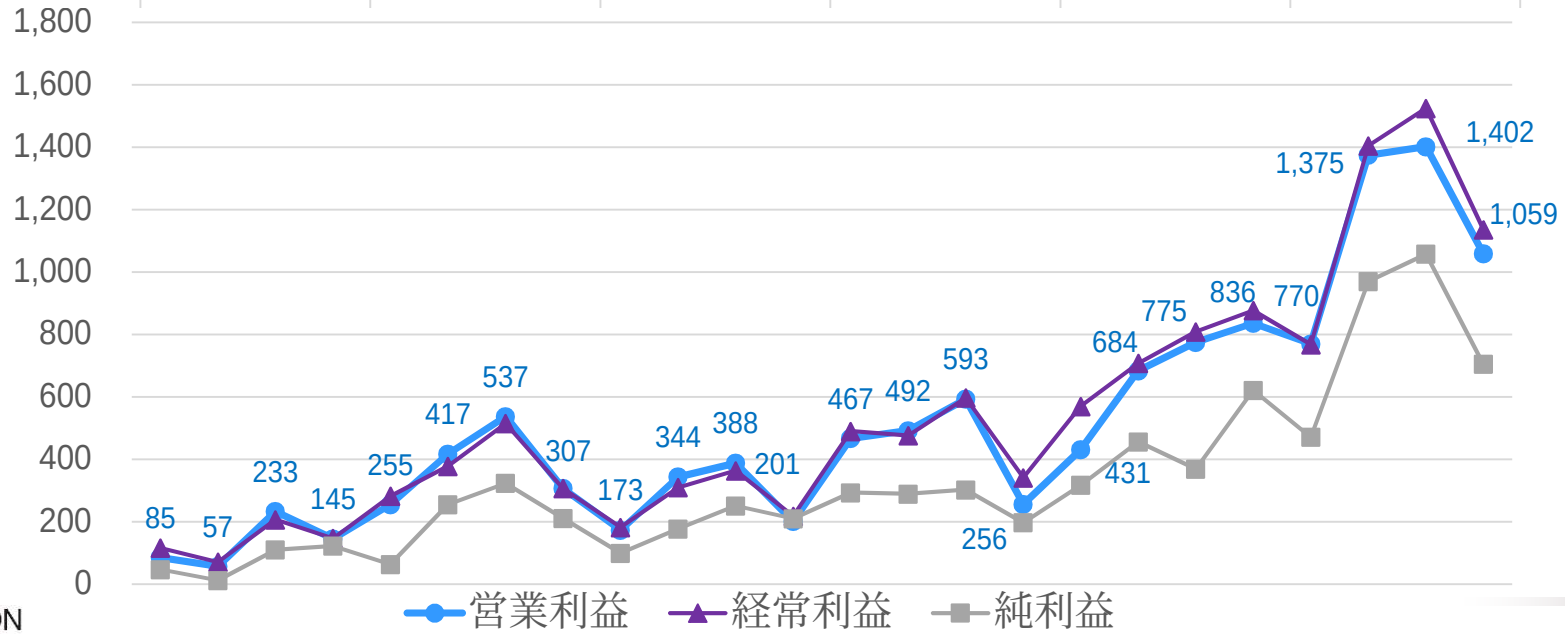
(単位：百万円)



四半期別　連結業績の推移

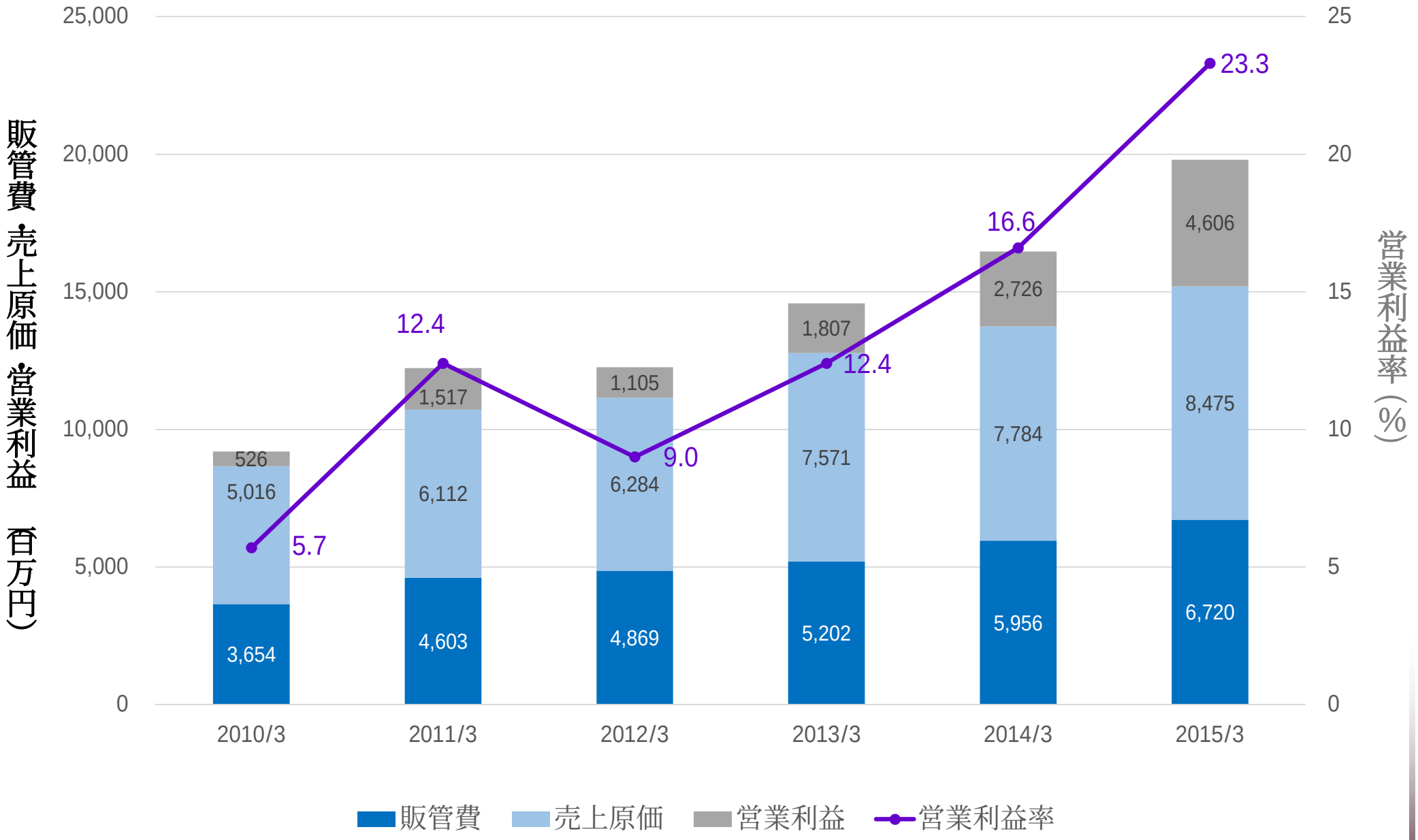
（単位：百万円）



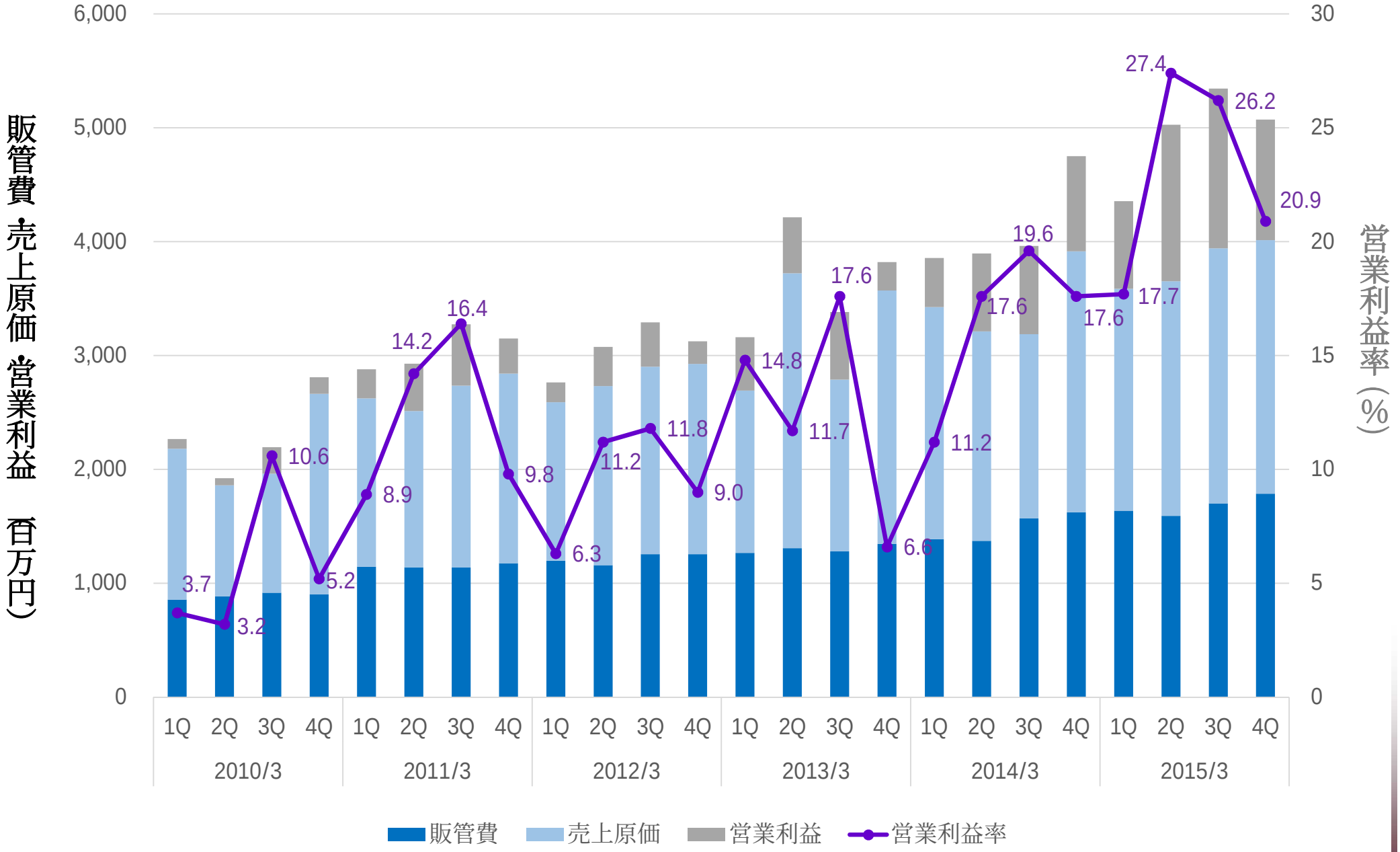


青文字：営業利益

年度別　販管費･売上原価･営業利益･営業利益率推移

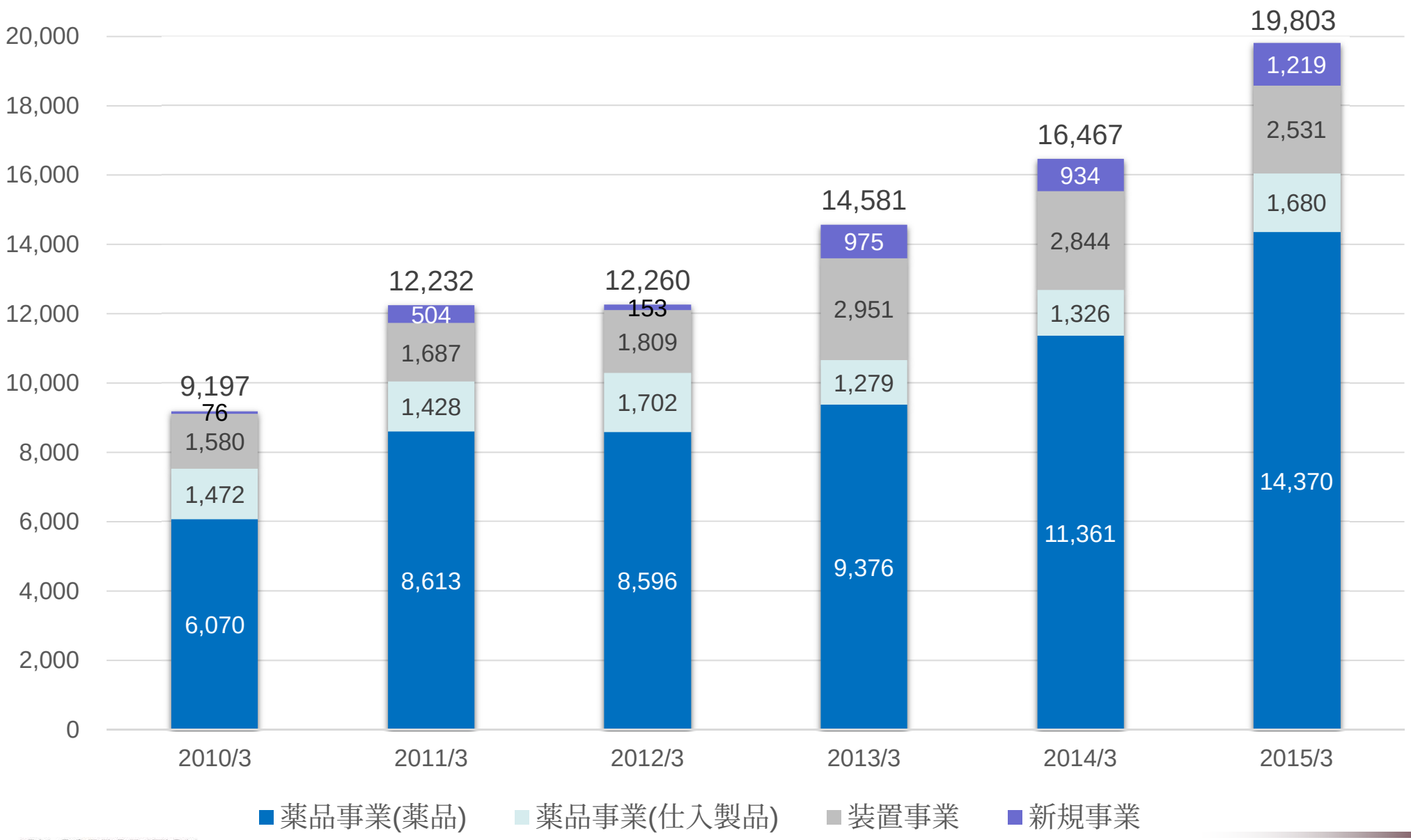


四半期別　販管費・売上原価・営業利益・営業利益率推移



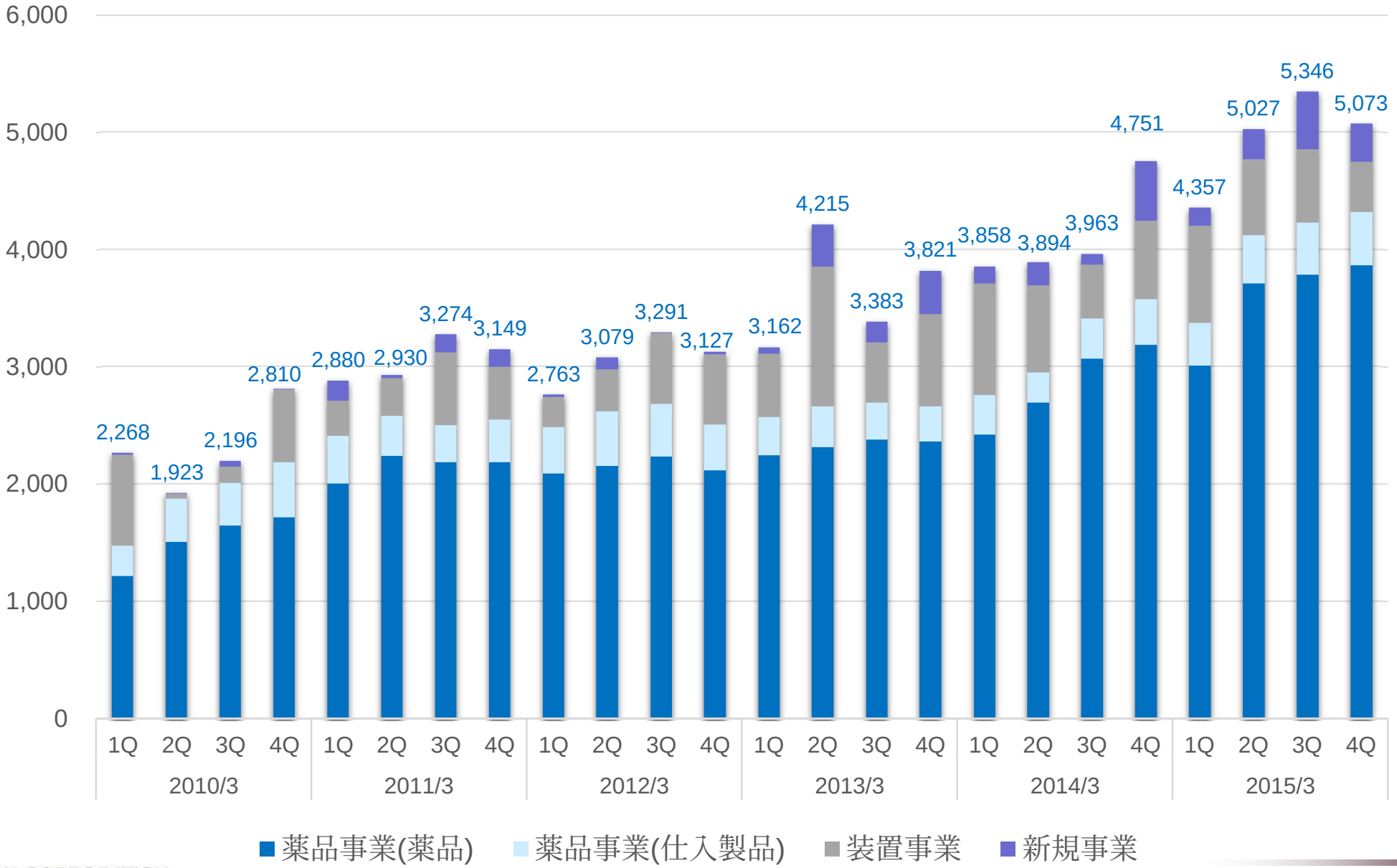
年度別　連結売上高の推移

(単位:百万円)



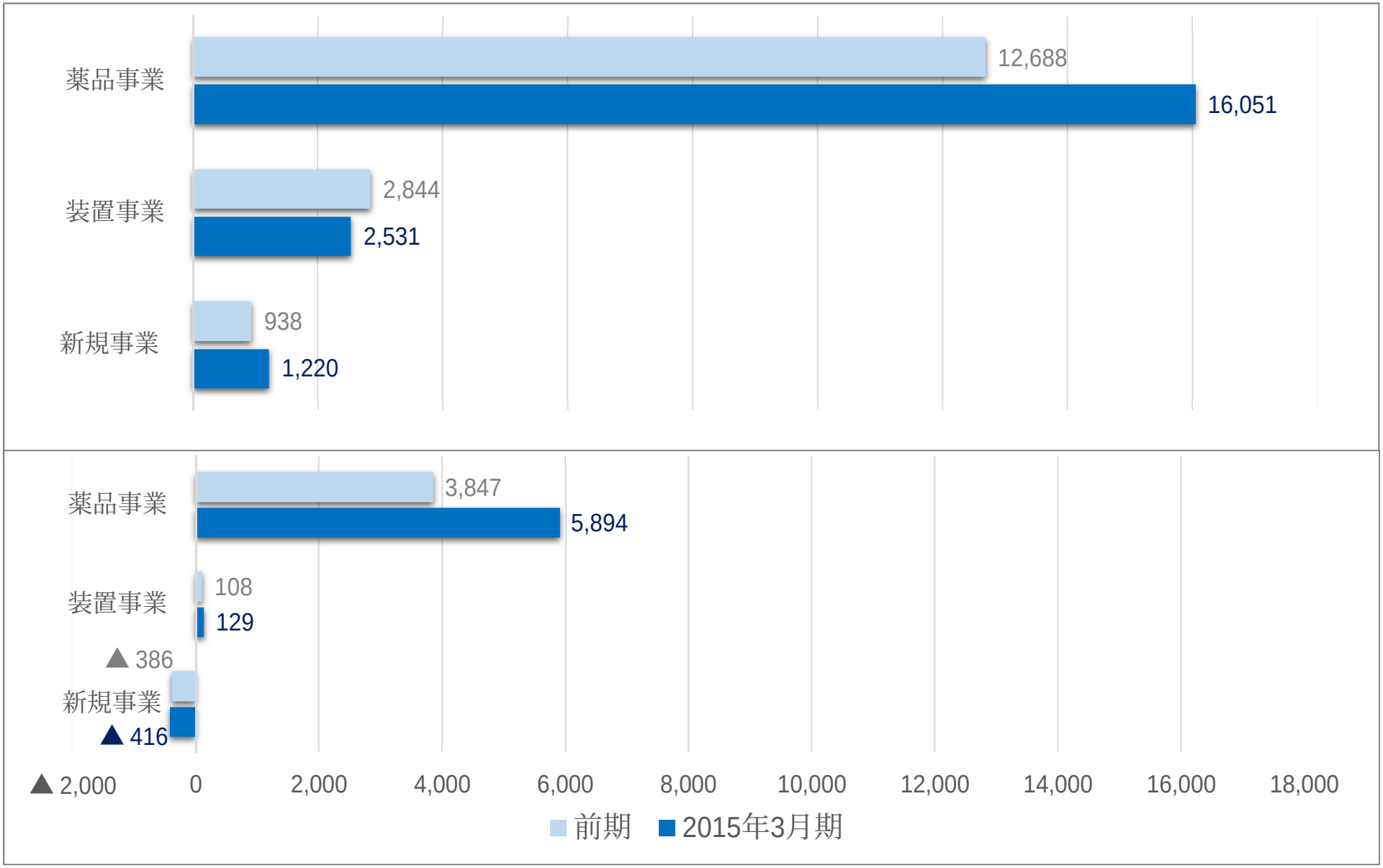
四半期別　連結売上高の推移

(単位:百万円)



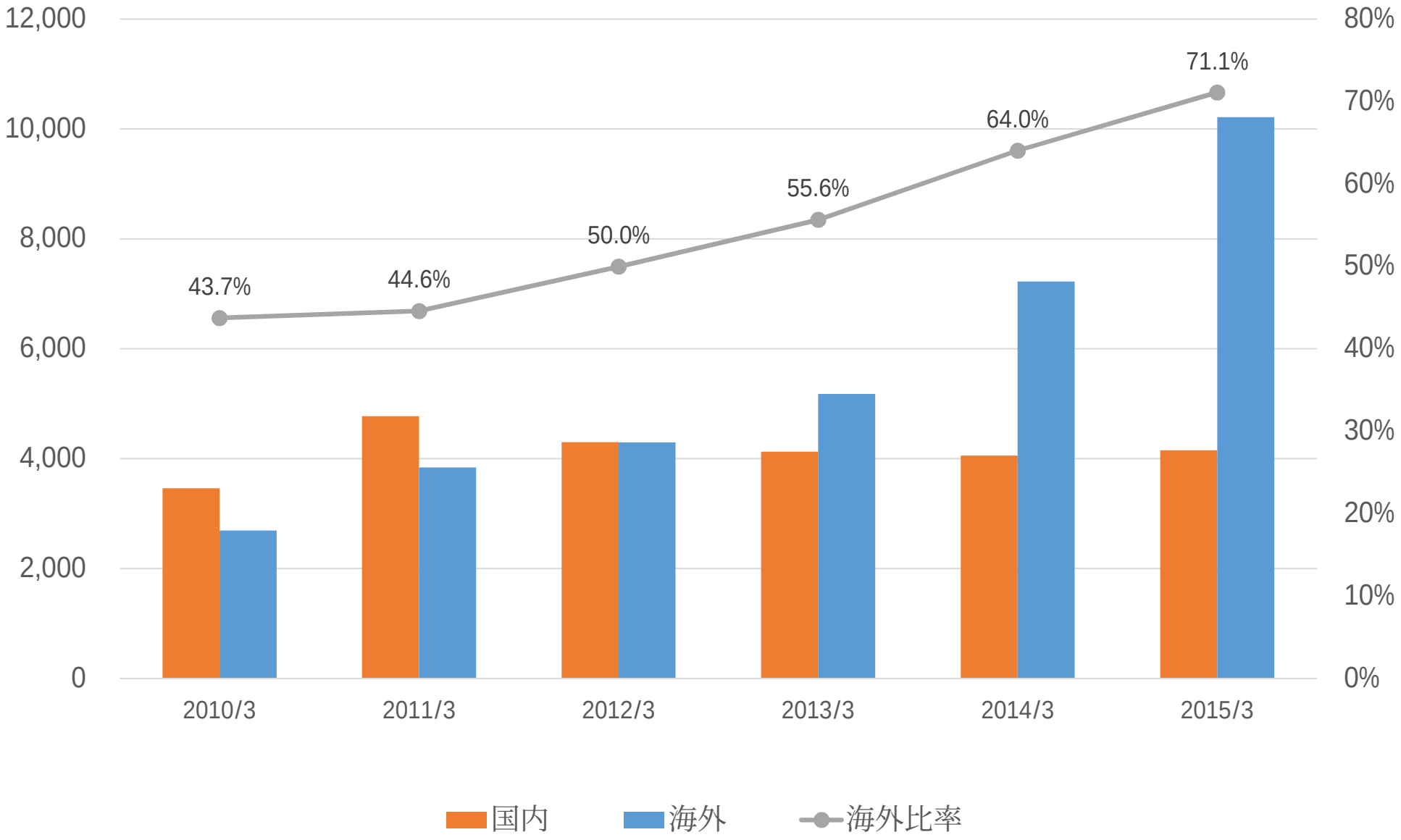
2015年3月期　連結セグメント業績

(単位：百万円)



年度別　国内外薬品売上高推移

(単位:百万円)

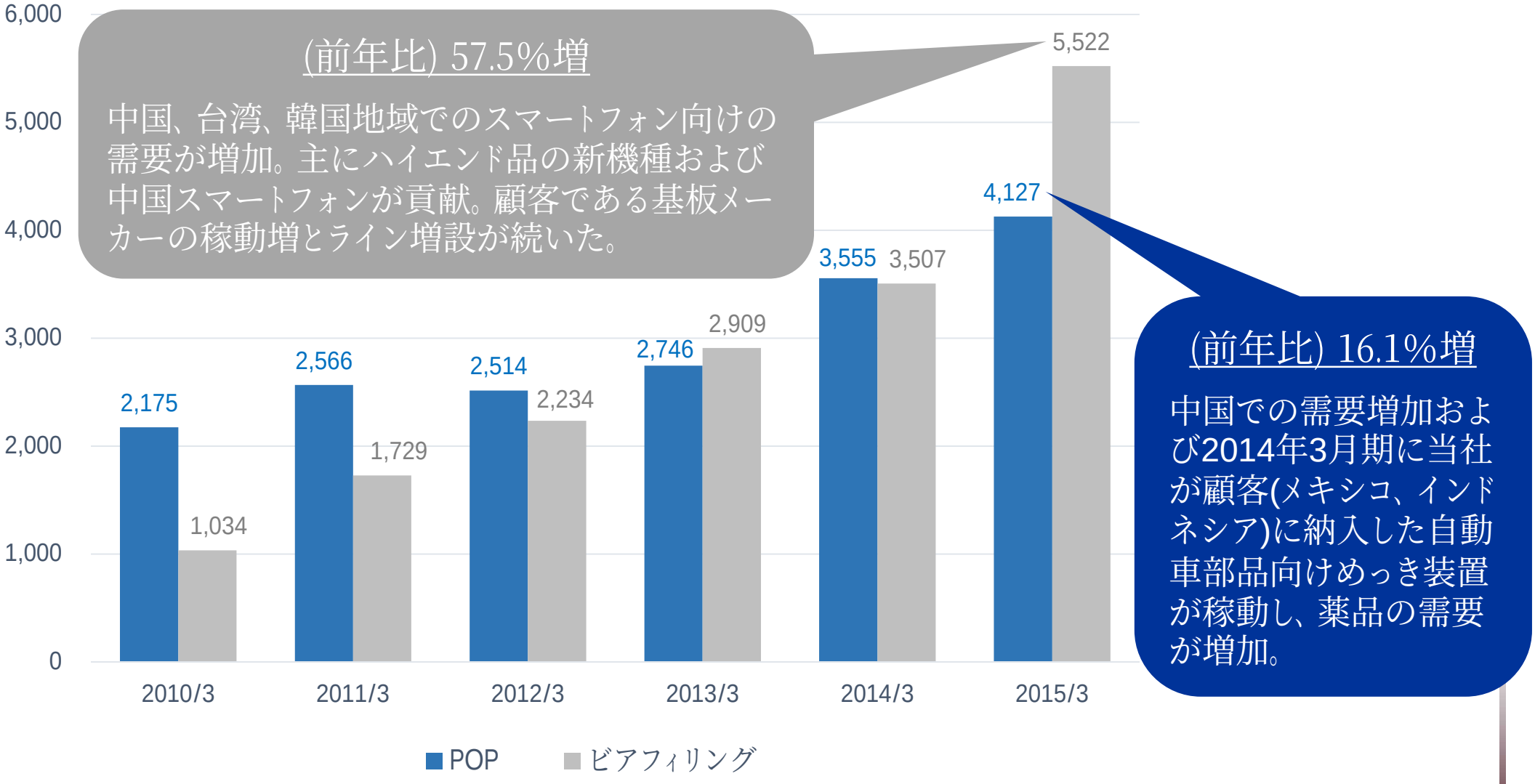


年度別　POP、ビアフィリング用薬品の売上高推移

(単位:百万円)

POP (Plating on Plastics) ･･･ プラスチック上へのめっきで、主に自動車部品向け

ビアフィリング･･･プリント配線板向け銅めっき添加剤、主にスマートフォン、PC等



(前年比) 57.5%増

中国、台湾、韓国地域でのスマートフォン向けの需要が増加。主にハイエンド品の新機種および中国スマートフォンが貢献。顧客である基板メーカーの稼動増とライン増設が続いた。

(前年比) 16.1%増

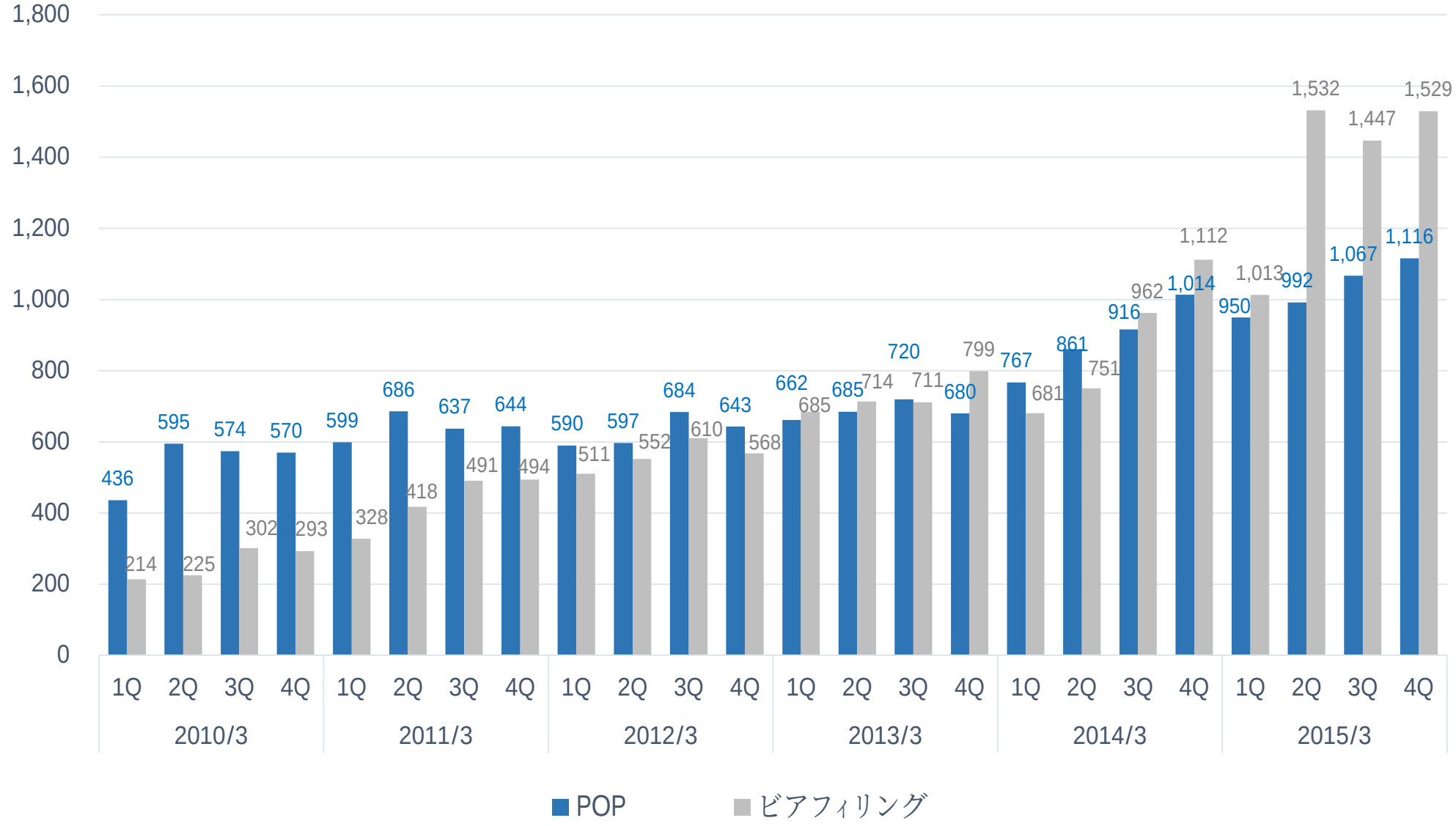
中国での需要増加および2014年3月期に当社が顧客(メキシコ、インドネシア)に納入した自動車部品向けめっき装置が稼動し、薬品の需要が増加。

四半期別　POP、ビアフィリング用薬品の売上高推移

POP (Plating on Plastics) ・・・ プラスチック上へのめっきで、主に自動車部品向け

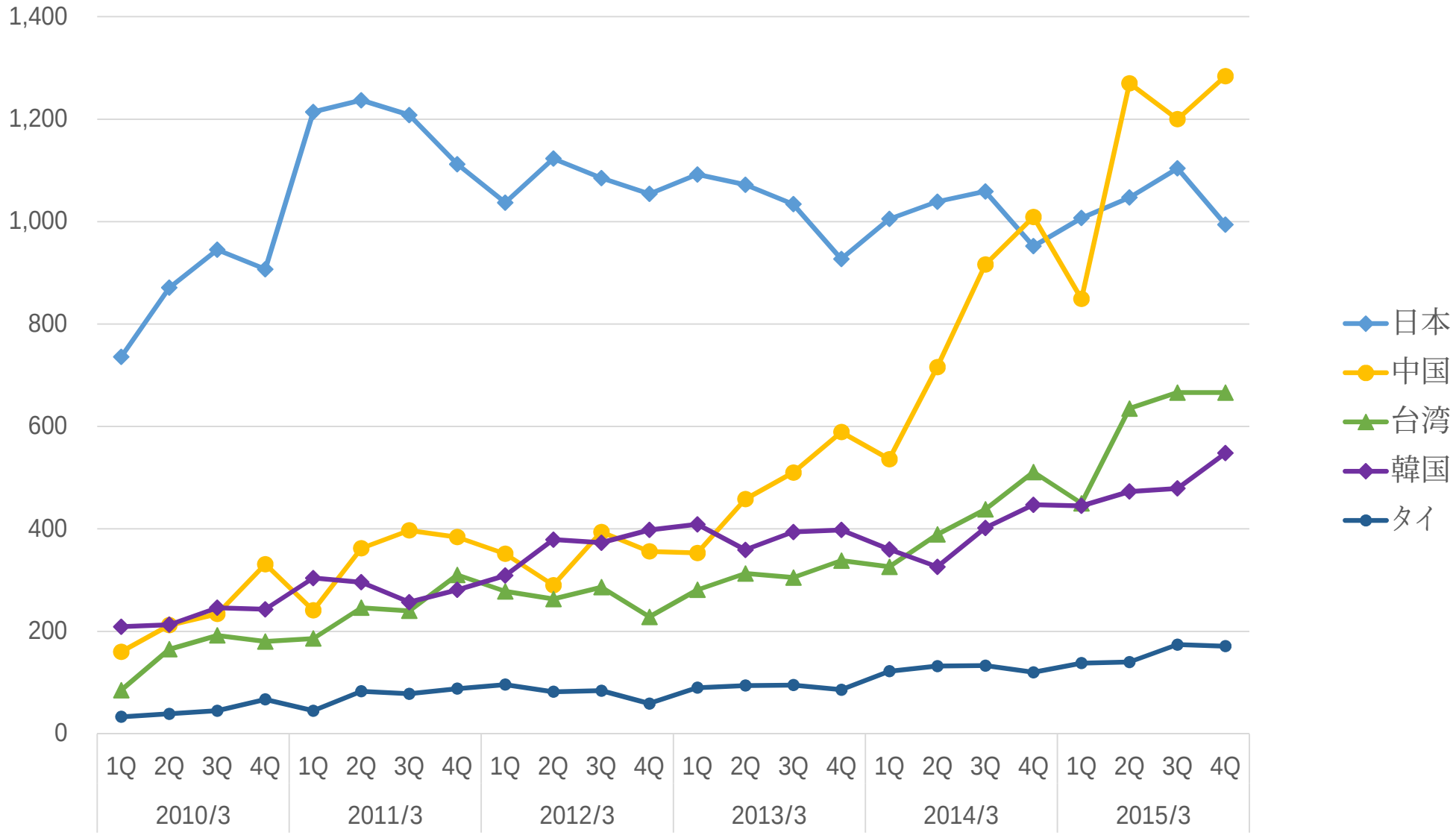
ビアフィリング・・・プリント配線板向け銅めっき添加剤、主にスマートフォン、PC等

(単位:百万円)



四半期別　地域別薬品売上高の推移

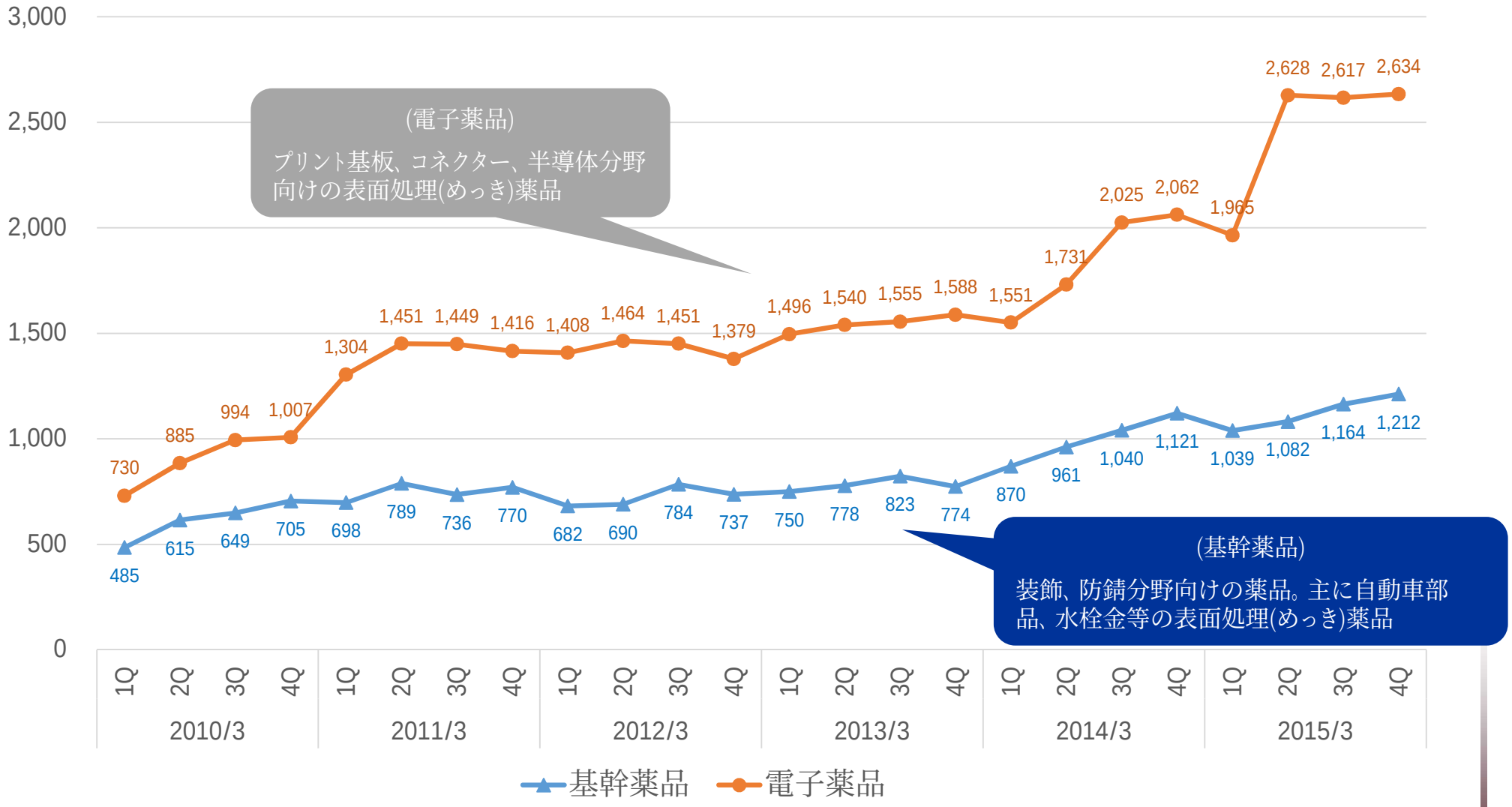
(単位:百万円)



四半期別　地域別薬品売上高の推移

(単位:百万円)

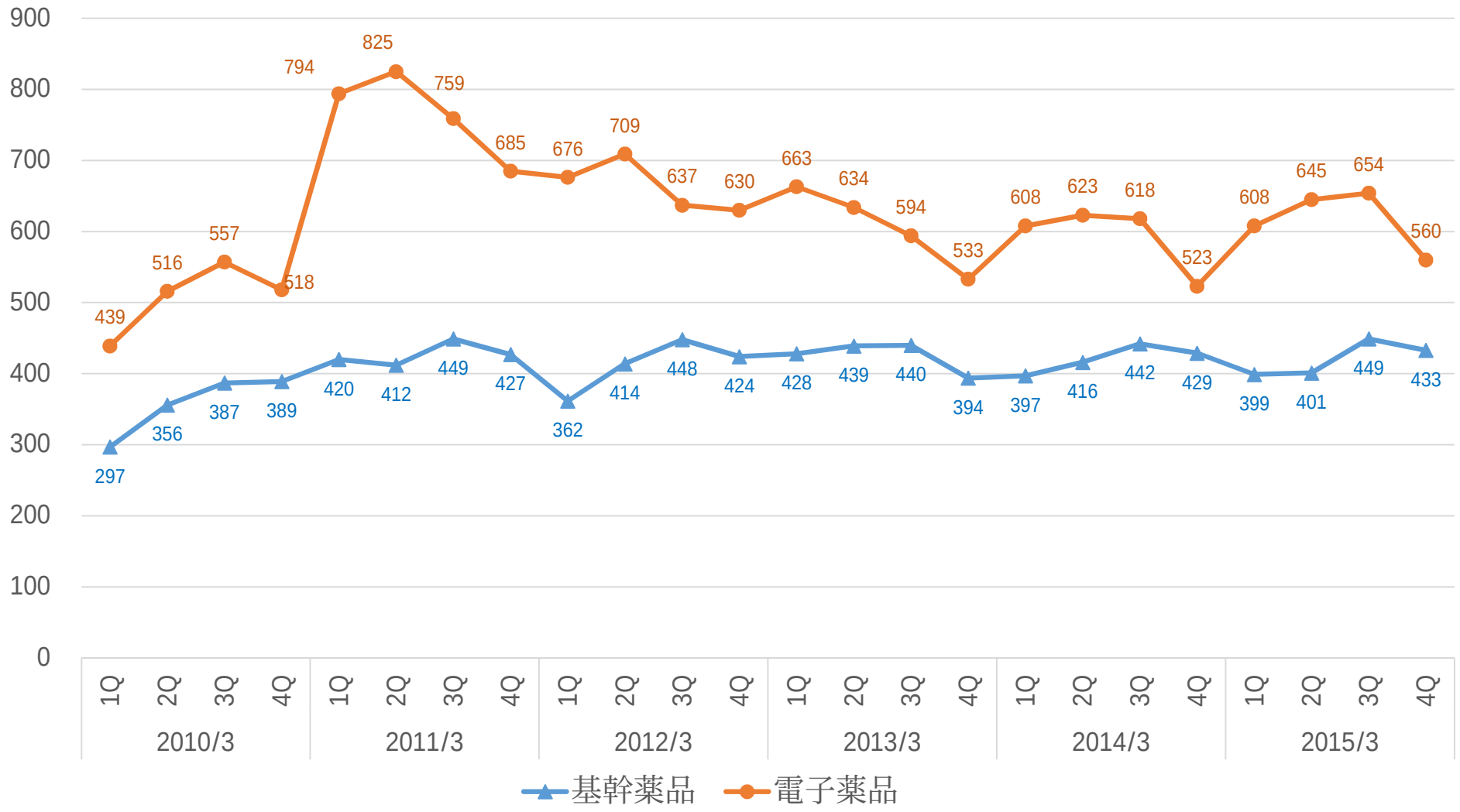
連 結



四半期別　地域別薬品売上高の推移

(単位:百万円)

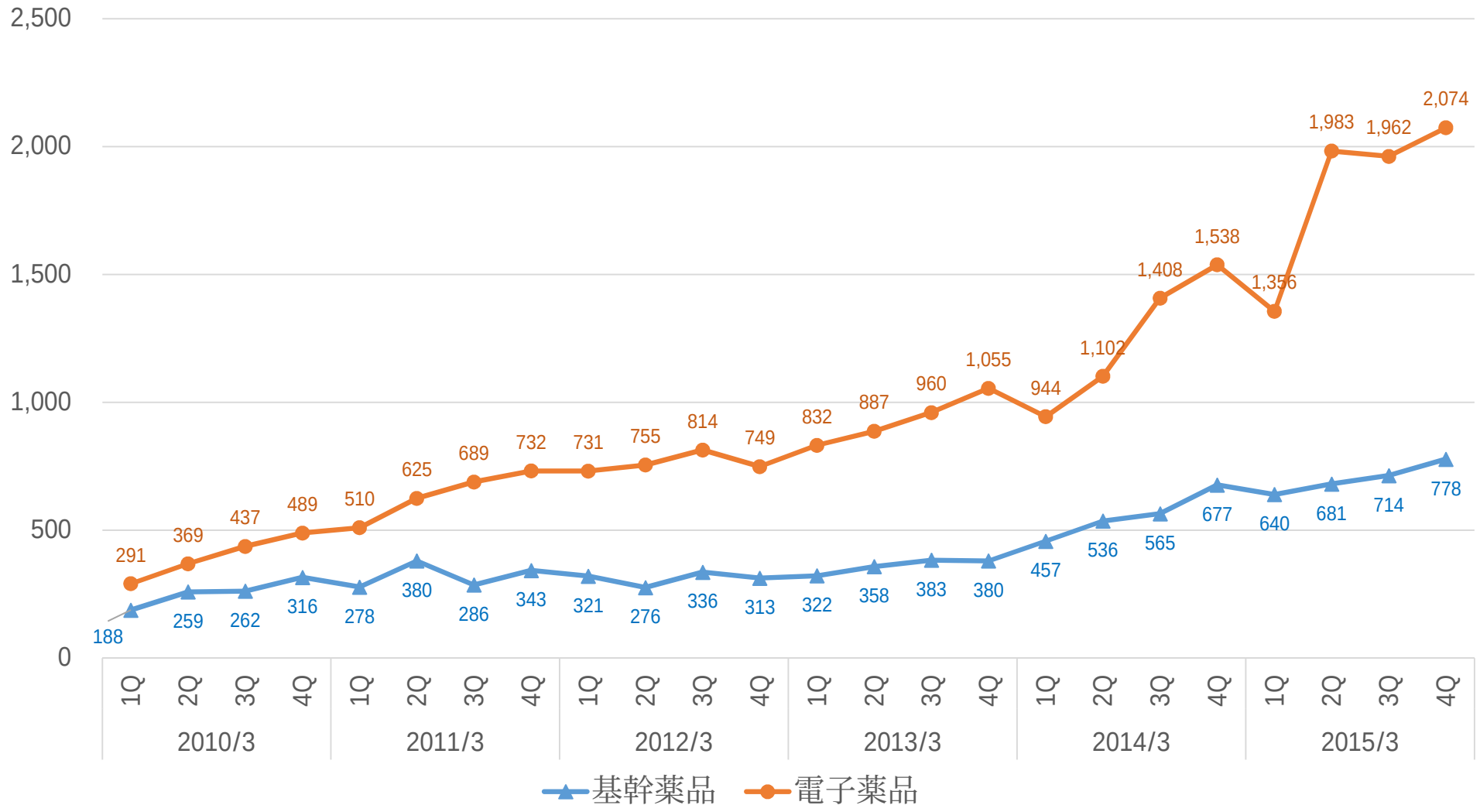
国 内



四半期別　地域別薬品売上高の推移

(単位:百万円)

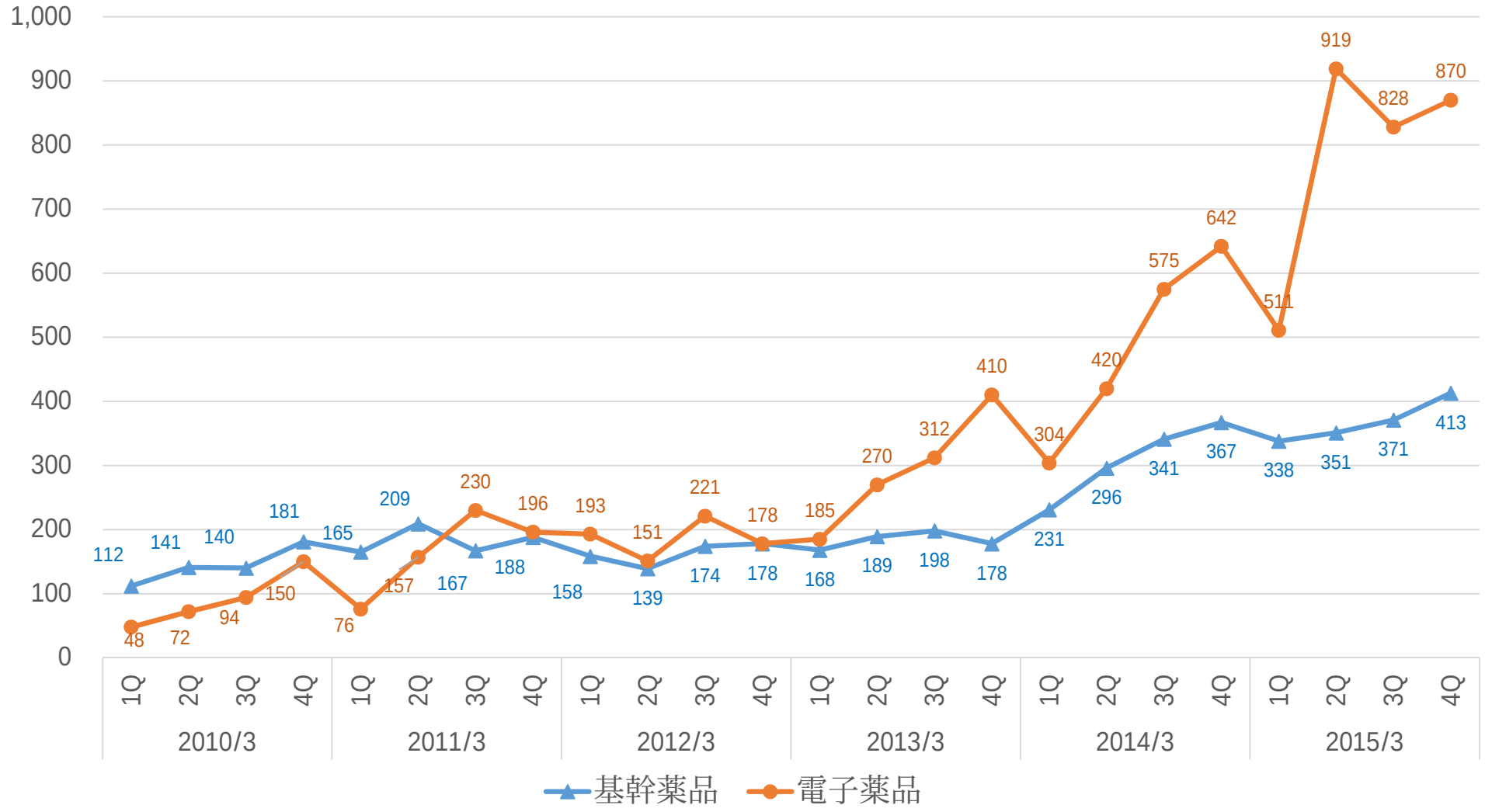
海 外



四半期別　地域別薬品売上高の推移

(単位:百万円)

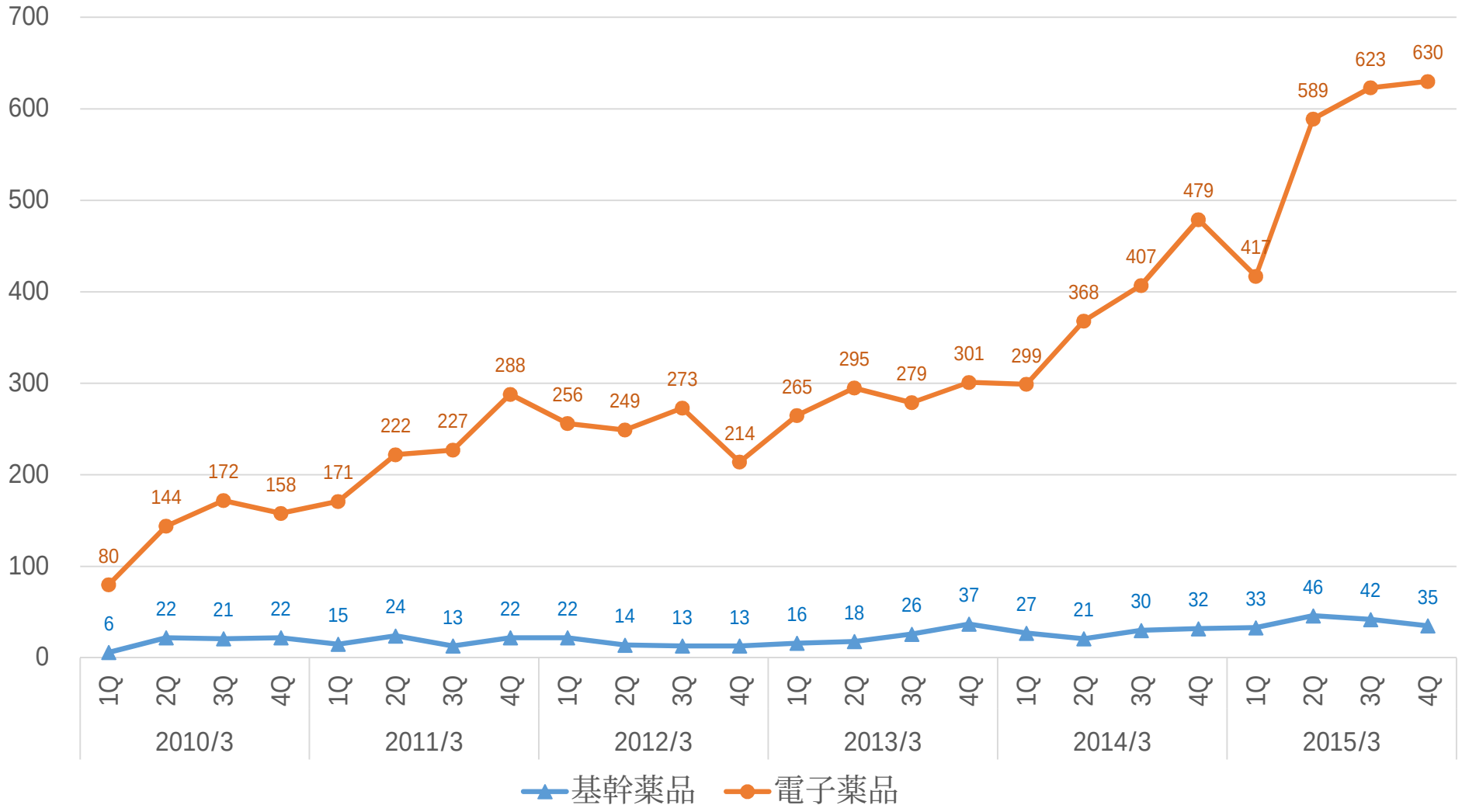
中 国



四半期別　地域別薬品売上高の推移

(単位:百万円)

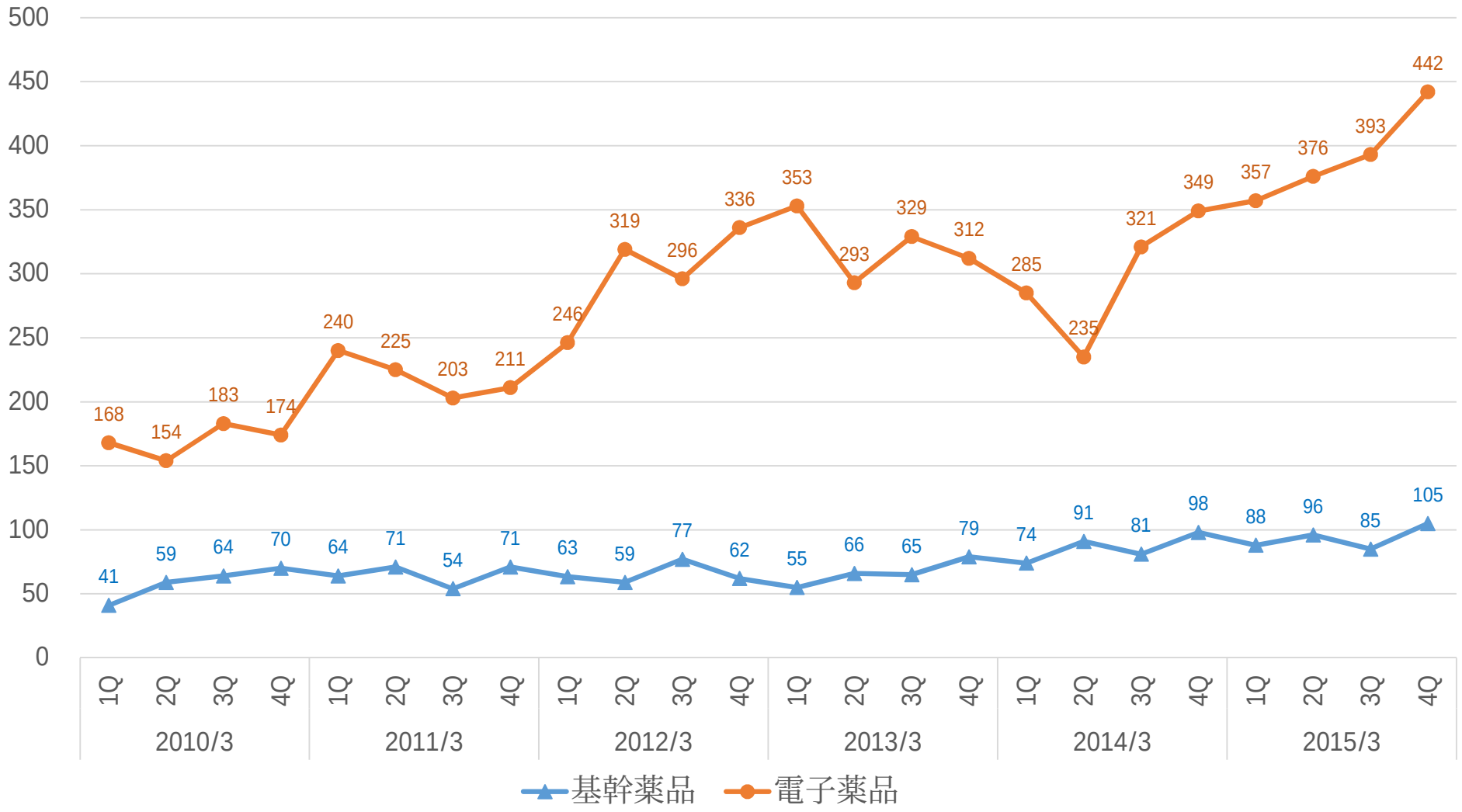
台 湾



四半期別　地域別薬品売上高の推移

(単位:百万円)

韓 国



配当状況

2014年10月1日付で、普通株式1株につき2株の割合を持って株式分割を行っております。

	1株当たり配当金		
	中間	期末	年間
2016年3月期 (予定)	50円	50円	100円
2015年3月期	80円 (分割後換算：40円)	50円	―　(注) (分割後換算：90円)
2014年3月期	55円 (内：記念配当10円)	55円	110円

(注)　2015年3月期の合計は、中間(分割前基準)と期末(分割後基準)で単純合計できませんので、記載しておりません。

当社は、将来の事業展開と経営体質の強化のために適正な自己資本比率を維持しつつ、業績の状況に応じて配当性向等を勘案し、安定した配当を実施することを基本方針としております。内部留保資金の用途につきましては、今後の事業活動並びに経営基盤の強化に有効活用していく方針であります。

- 2015年3月期決算概要
- トピックス
- 参考資料 (会社概要)

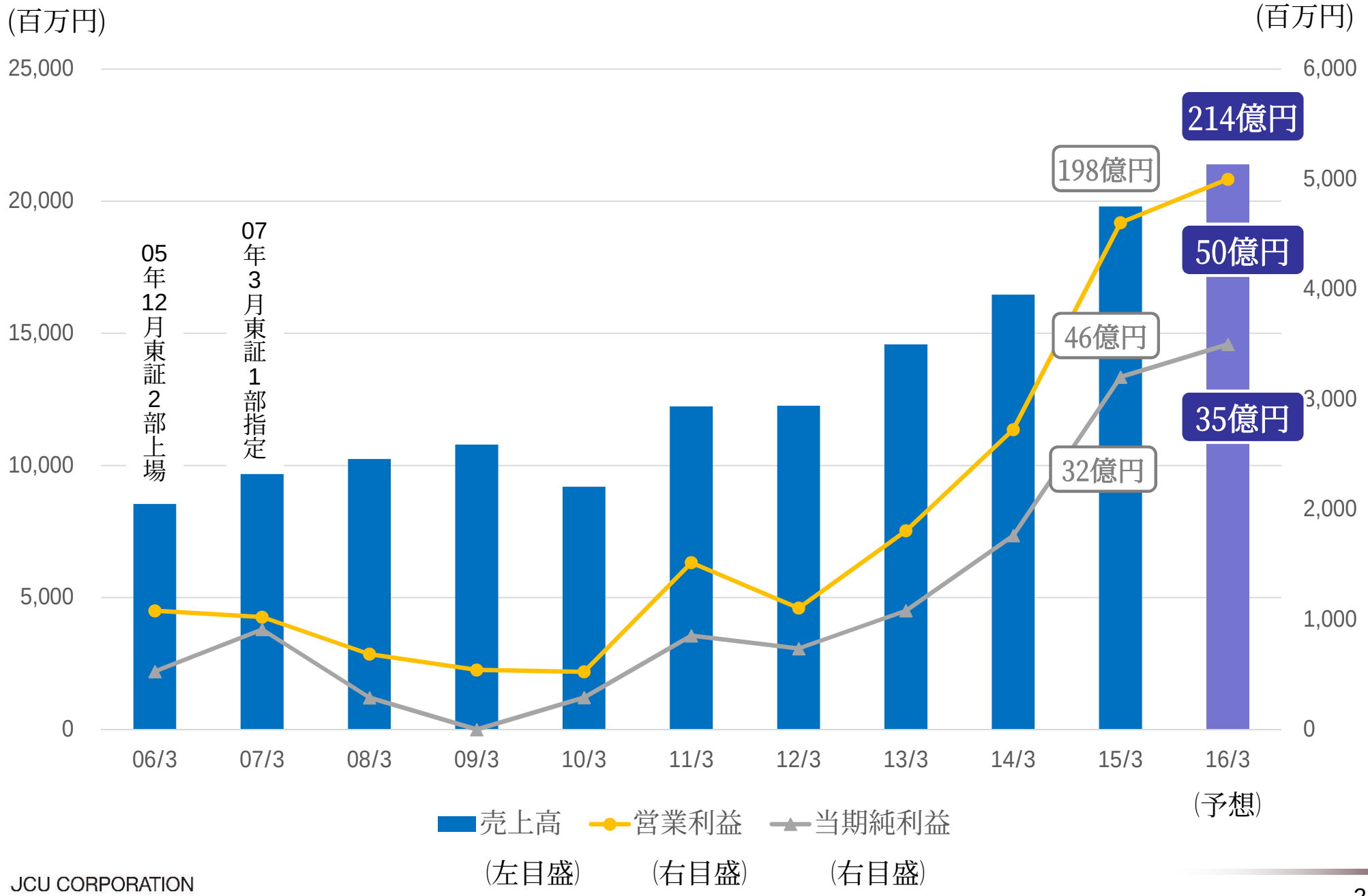
業績予想

(単位:百万円)

決算期	2015年3月期	2016年3月期 (予想)	前期に 対する増減率
売　　上　　高	19,803	21,400	8.1 %
営　業　利　益	4,606	5,000	8.5 %
経　常　利　益	4,834	5,000	3.4 %
当 期 純 利 益	3,204	3,500	9.2 %
1 株 当 た り 当 期 純 利 益	454円30銭	496円15銭	―
配　　当	― (注) 第2四半期末:80円 (分割前) 期末:50円 (分割後)	100円 第2四半期末:50円 期末:50円	―

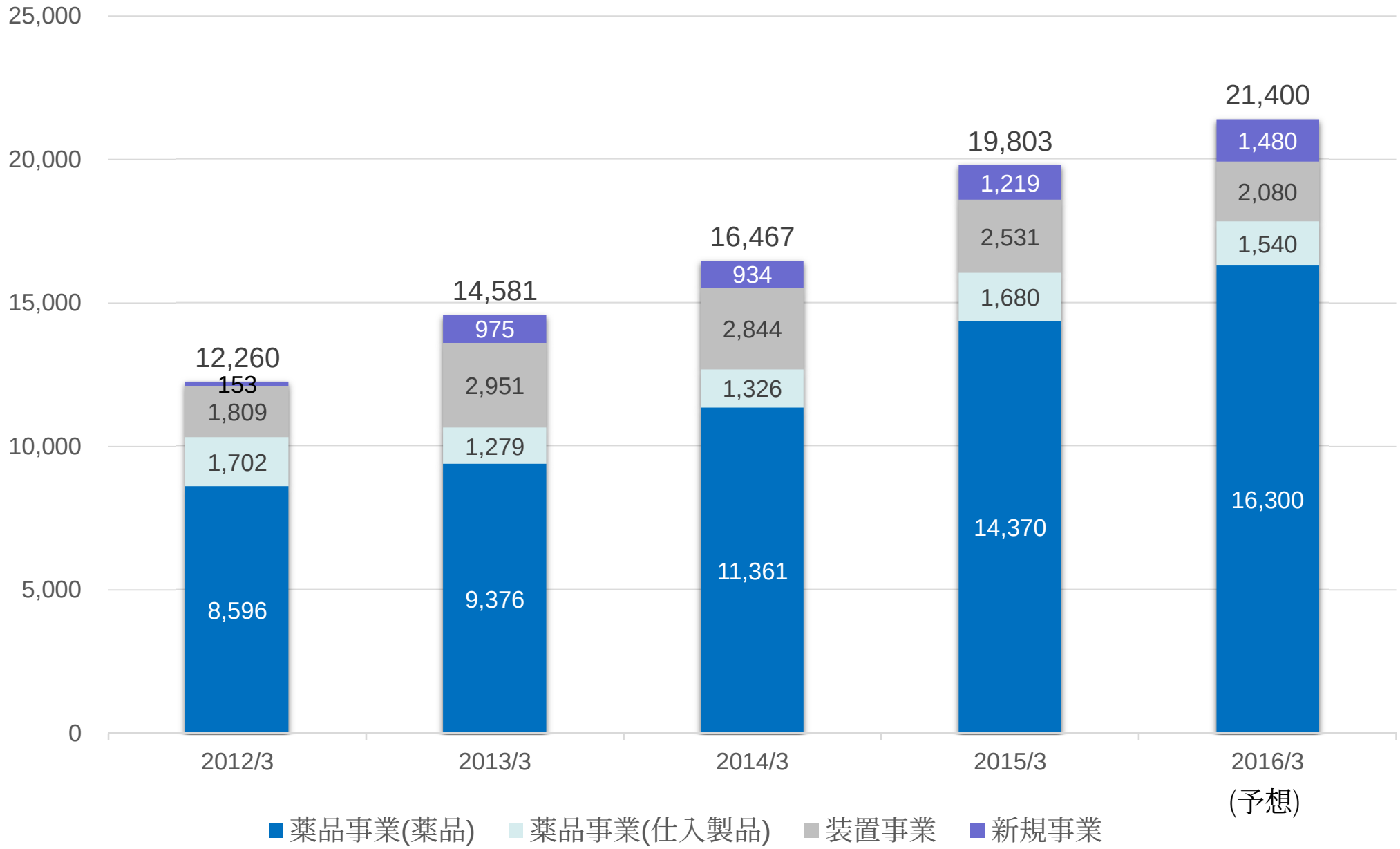
(注) 2014年10月1日付で、普通株式1株につき2株の割合を持って株式分割を行っております。
2015年3月期の合計は、中間(分割前基準)と期末(分割後基準)で単純合計できませんので、記載しておりません。

上場からの業績推移 (予想)



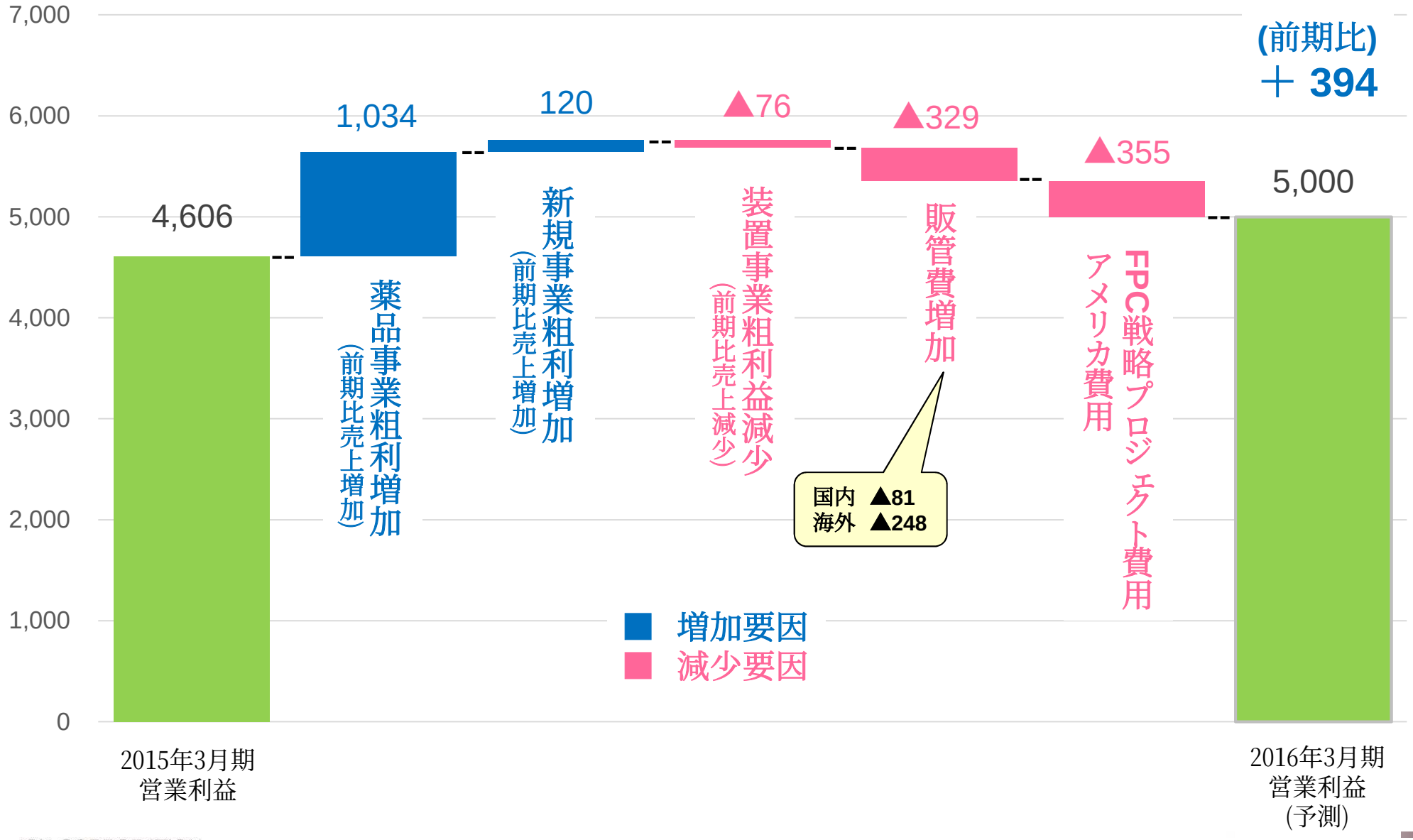
年度別製品構成別売上高推移 (予想)

(単位:百万円)



2016年3月期　連結営業利益　増減予測

(単位：百万円)



FPC(フレキシブル基板)戦略プロジェクト

背　景

(※) フレキシブル基板･･･薄く柔軟性があり、折り曲げられる基板。

フレキシブル基板(FPC)の市場拡大

◆ 基板業界において、フレキシブル基板(※)の展望が明るい。

◆ 近年、スマートフォン等のモバイル機器に使用され、需要が増加。

◆ 市場規模としては、2020年には1兆6,575億円 (2012年比 1.6倍)との予測。

◆ より微細な回路形成に対応するFPCの需要が増える可能性あり。

製造工法 (メタライズ法について)

◆ 従来工法では、スパッタリング工程のコストが高く、FPCの値段も高い。

◆ また、微細な回路を形成するための軽薄短小化に、制限がある。

◆ コストダウンと微細化を目的に新工法(全てめっきによる処理)に注目が集まる。

FPC(フレキシブル基板)戦略プロジェクト

FPCの商流

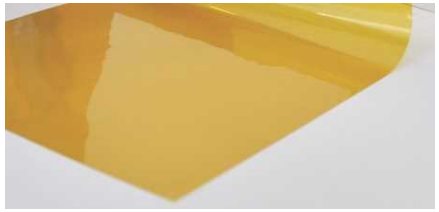
〈ターゲット〉

- FPCメーカーのFCCL工程の内製化（コストダウン、軽薄短小化）
- FCCLメーカーへの新工法提案（コストダウン、軽薄短小化）
- パッケージ基板へFPC採用（軽薄短小化）

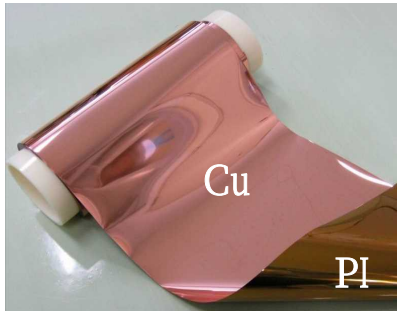
ポリイミド(PI)フィルムメーカー

フレキシブル銅張積層板(FCCL)メーカー

ポリイミドに銅箔(Cu)を張る。



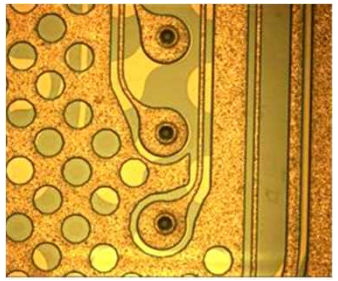
ポリイミド(PI)



FCCL(フレキシブル銅張積層板)

FPCメーカー

FCCLを購入し、回路を形成してFPCを製造する。



両面FPC

最終製品メーカー

スマートフォンメーカー
TVメーカー、PCメーカー等

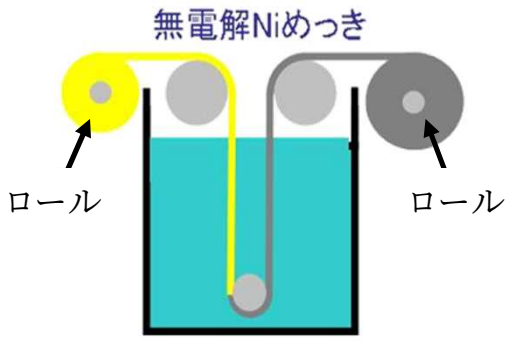
FPC(フレキシブル基板)戦略プロジェクト

課　題

◆ コストダウンと微細化に対応した薬品はすでに完成。
しかし、これだけでは生産性UPはできない。

◆ ロール to ロール式のめっき装置とプラズマ装置の開発が必要。

【イメージ】
ロール to ロール式めっき装置



今後の方策

社内にトップ主導のプロジェクトチームを発足！

経営戦略、研究所、装置、新規事業、営業が一丸となった体制。

⇒ 各種装置を急ピッチで開発･立ち上げ。(今秋を目処に試運転を実施)

⇒ 技術確立を急ぎ、他社に先駆けて薬品と装置の拡販を開始。

アメリカ現地法人：JCU INTERNATIONAL

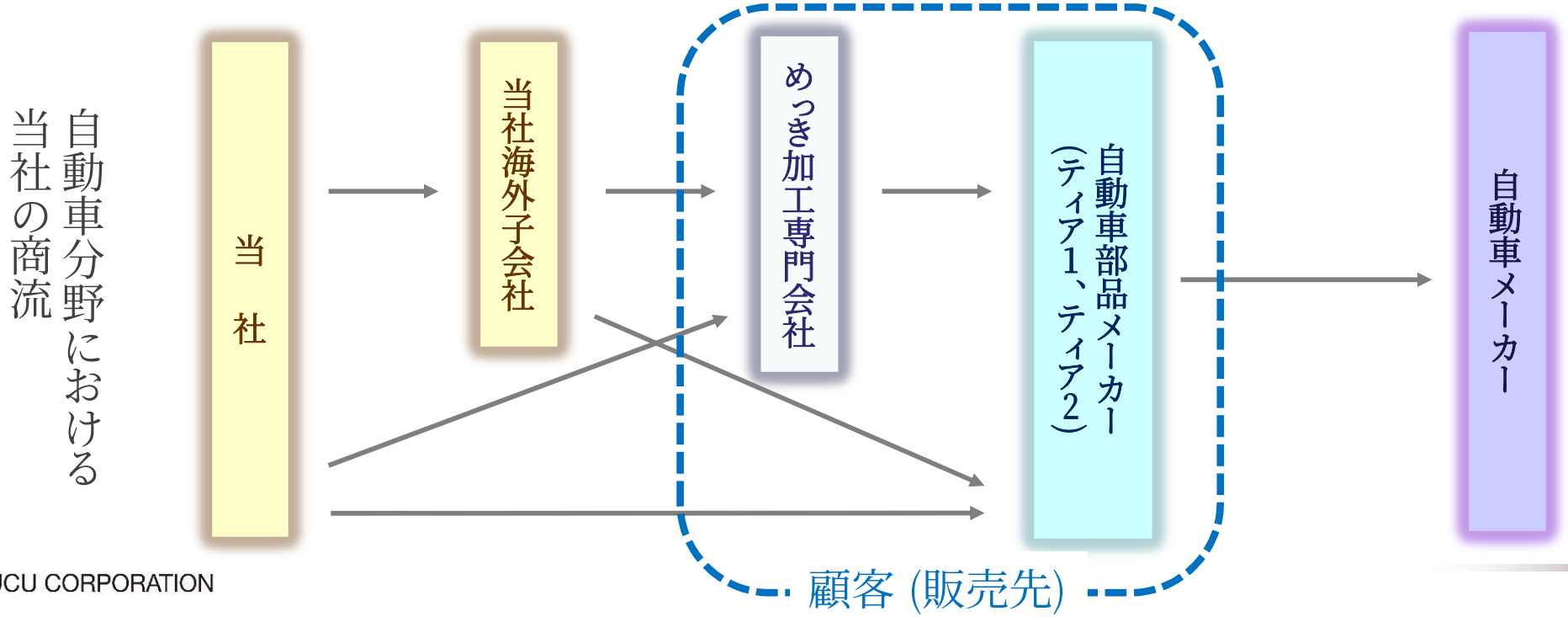
設立の背景

◆ 現在、当社商流におけるエンドユーザーは日系自動車メーカーが大半を占める。

◆ 欧州の化学物質規制が、今後世界に広がる可能性あり。 → 新技術が必要

◆ 技術の変わり目をチャンスと捉え、米国自動車部品市場の開拓に臨む。

◆ 現地での迅速な情報収集、人脈形成の観点から現地法人を設立。



アメリカ現地法人：JCU INTERNATIONAL

競　合

◆ 米国市場は、欧米薬品メーカーの牙城

→ 既存技術では、参入の余地がない。

当社の対応

◆ 2014年10月に現地法人を設立。(今秋からスタート予定)

◆ 日本人3名(取締役、技術2名)を派遣。

◆ 研究開発および情報収集拠点としての位置付け。

◆ 日本国内の総合研究所との連携を図り、将来のニーズに対応した新技術の開発を急ピッチで進める。

JCU

米ミシガンに研究拠点

メッキ液や装置 車部品ニーズ吸い上げ

JCUは7月、米国ミシガン州にメッキ液や装置の研究開発拠点を開設する。米自動車部品市場のニーズを吸い上げて現地に特化した製品を開発し、3年後をめどに発売するとともに世界市場にも各国の拠点を通じて波及させる。自動車産業の最前線である同国に拠点を置くことで、開発力を強化するのが狙い。海外に開発拠点を置くのは初となる。

拠点は同社が2014年10月に設立した現地法人のJCU INTERNATIONAL（大森晃久社長）が運営する。延べ床面積1580平方㍍の平屋に、総合研究所（川崎市麻生区）の自動車部品用メッキ製品の開発機能と同等の設備などをそろえる。

従来、米はメキシコの現地法人の事業エリア。今後も既存顧客は引き続きメキシコ法人が対応し、製品開発と新規開拓を米法人が担当する。

JCUは、現在9カ国に12カ所の拠点を持つ。14年4―12月期の海外でのメッキ液事業は売上高約73億円と、国内の同約32億円を大きく上回る。世界市場での存在力を高めるため、拠点設置を決めた。

日刊工業新聞　2015年4月6日(月)　12面

※ 記事の著作権は日刊工業新聞社に帰属します。
転載認証番号：N-6206

アメリカ現地法人：JCU INTERNATIONAL

今後の方策

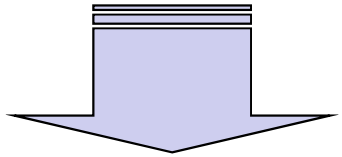
◆ 米国市場のニーズの汲んだ自動車部品向けの製品(技術)開発。

◆ 米国市場における新規顧客の開拓と獲得。

◆ 自動車だけではなく、電子産業においても世界有数の企業が多数。

⇒ 製造の現場だけではなく、頭脳(設計図、認定)を攻略することが目的。

⇒ 米国だけではなく、製造拠点のある海外各地域への波及に期待！



JCUグループへの波及効果をもたらす、戦略的な拠点

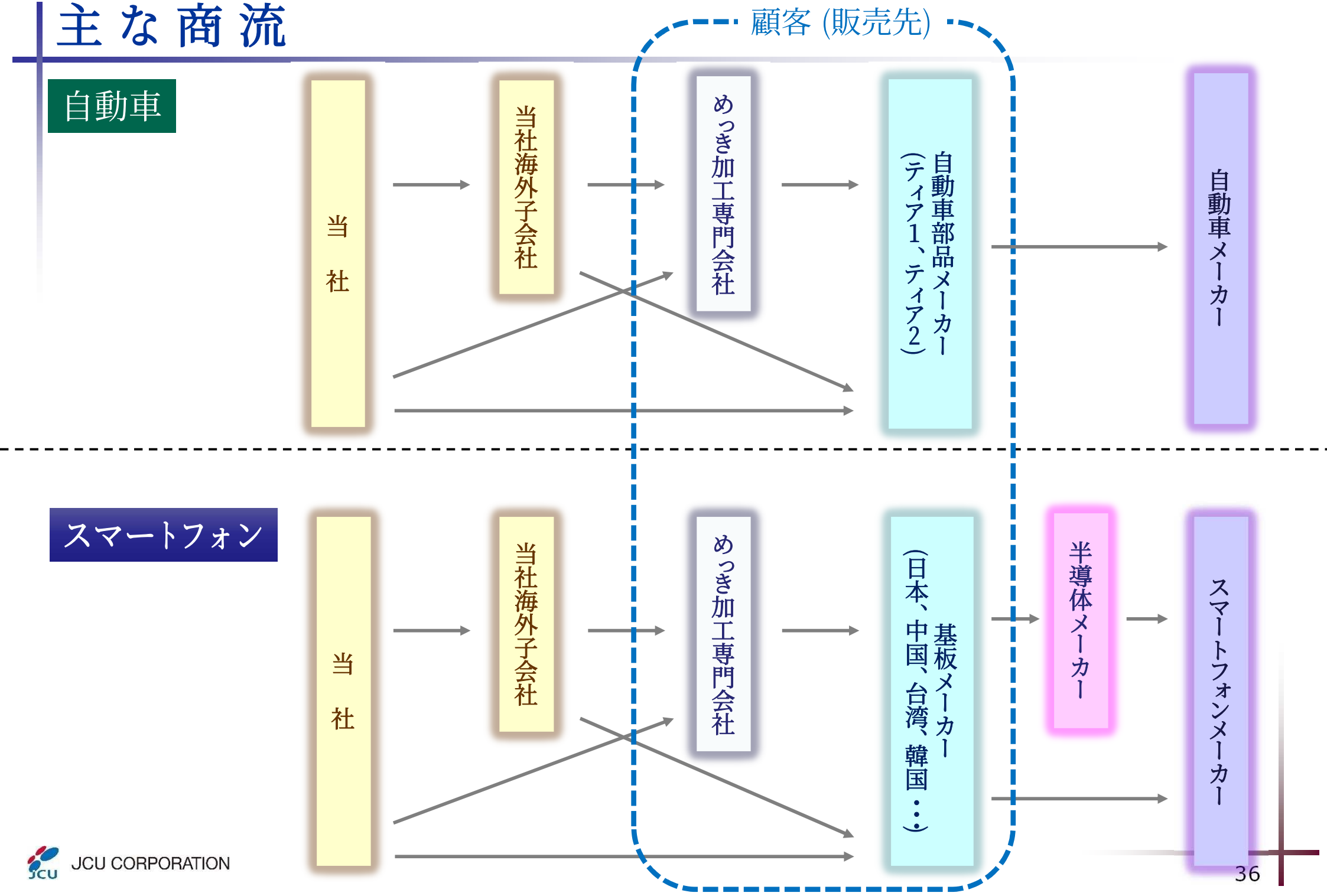
- 2015年3月期決算概要
- トピックス
- **参考資料 (会社概要)**

会社概要

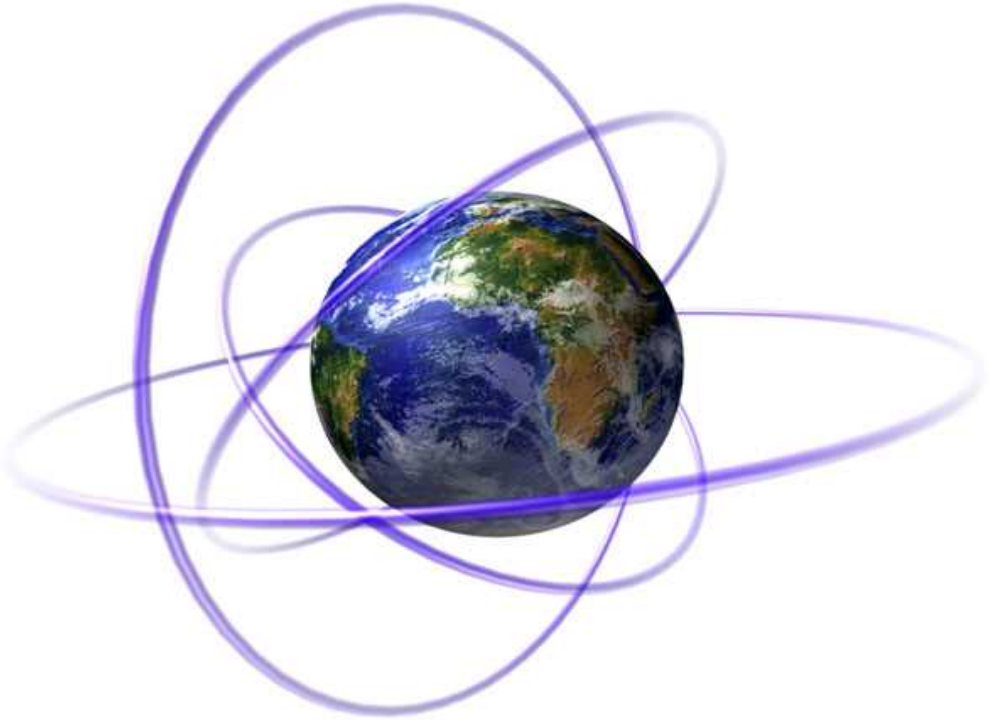
創　業	：	1957年 12月
設　立	：	1968年 4月 1日
資本金	：	11億7,625万円
本社所在地	：	東京都台東区東上野 4-8-1　TIXTOWER UENO 16階
業務内容	：	表面処理薬品、表面処理装置及び関連資材の製造･販売
代表者	：	代表取締役会長兼CEO　粕谷 佳允　、他2名
従業員数	：	単体 252名　　連結 504名　　(2015年3月末現在)
拠点	：	国内 6拠点　　海外 13現地法人

ISO認証取得	ISO9001	生産本部･薬品調達部･薬品事業本部･本社営業部･総合研究所	JCQA-0281
	ISO14001	生産本部･総合研究所	JCQA-E-0143

主な商流


顧客（販売先）
自動車
当社
当社海外子会社
めっき加工専門会社
自動車部品メーカー
（ティア1、ティア2）
自動車メーカー
スマートフォン
当社
当社海外子会社
めっき加工専門会社
基板メーカー
（日本、中国、台湾、韓国・・）
半導体メーカー
スマートフォンメーカー

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があり、この資料はその実現を確約したり、保証するものではございません。



当社ホームページ:
http://www.jcu-i.com/

お問い合わせ先:
TEL: 03-6895-7001
FAX: 03-6895-7021
Mail: ir@jcu-i.com